

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

## 企業は「働き方改革」学生は「学び方改革」を

コロナ禍がもたらした社会変革のひとつに在宅ワーク・オンライン学習を取り入れた働き方・学び方への適応が求められたことがあります。従来の通勤・通学を不要とする視点ではなく、より時間を効率的に使う社会への変化です。

これまで無意識に捨ててきた貴重な時間を仕事なり、学習なりに振り向けるだけで自分への立派な投資にできるのです。コロナ危機がもたらした瓢箪から駒として働き方改革と学び方改革につなげていきたいものです。

コロナ禍による大学生の困窮ぶりが話題となり「学費が払えないから学校をやめざるを得ない」「アルバイトを解雇され生活できない」といった主張が社会に対する抗議のような形でSNSから発信されるケースが目立ちます。私の通勤途中にあるコンビニ店では見るからに学生の外国人がきちんとした敬語で対応してくれます。彼ら、彼女らは文化の異なる外国住まいで働きながら生き抜いています。あまりに対照的な姿です。

コロナ禍にあっても今の日本で仕事が無いことはまずありません。正社員採用を除いたパート・アルバイトなら人手不足の業界はごろごろあります。特に小売り、外食、警備業、農業、配送・運輸どこをとっても人手不足は改善されていません。

その昔、新聞奨学生制度を活用する学生が身近にいました。社会に向かってSNSで「助けてください」と訴えられても首をひねりたくなる感覚を抱く世代もあるのです。



毎号、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。7月の初旬より全国の高等学校に当社の求人票を送致しました。何卒、どんな小さなことでもお問い合わせください。誠意をもって説明いたします。

松本 隆一郎